

【Session 2-2】

姜 昭全

「済州島巫俗のヨンガムノリと船送り」
ペバンソン

金 良淑

済州島の巫俗儀礼の構成には、玄容駿が分析したように¹、神話儀礼（ポンプリ）、迎神儀礼（マジ）、聖劇儀礼（ノリ）の3つの要素が見られる。しかし、それらはすべての神について行われるものではなく、祈願の対象となる神によってポンプリのみの場合と、ポンプリ+マジ、あるいはポンプリ+ノリという複合的な形で構成されている。巫者が神に扮し神話を演劇的に再現する「ノリ」のうち、ペバンソン（船送り）を伴うのは、ヨンガムノリだけである。つまりヨンガムノリは、姜昭全氏が指摘したように、ヨンガム神が海の彼方に船で送り返されるまでの過程を演劇的に表現した「聖劇儀礼」であり、本シンポジウムのテーマを議論する上で、有意義なテーマであるといえる。本コメントでは、「済州島巫俗のヨンガムノリと船送り」の発表内容をふまえた上で、ペバンソンに関連したヨンガムの属性、および神の身体表現としてのヨンガムノリに注目し、議論の糸口としたい。

本日の発表では、ヨンガムノリおよびペバンソンの意味を検討するために、ヨンガムポンプリに現れるヨンガムの性格と、各種の儀礼におけるヨンガムの役割が明らかにされた。ポンプリの内容は島の東西で若干の差異が見られるものの、基本的なモチーフは同じであり、ヨンガムは祖上神、堂神、プルム神、船王神など、「多様な性格をあわせ持つ存在」であるという。また、その多様な性格によって、豊饒神としての役割と、災殃神、疾病神という役割を担う、善悪二面性を持った神でもある。そのため、同じヨンガムノリとペバンソンであっても、儀礼によって「娛神」と「駆逐」というまったく異なる意味を持って行われているということがわかった。さらに、豊饒祭におけるヨンガムノリは「ノリ」の部分が縮小され、ポンプリとペバンソンによる「船王プリ」の形式で行われており、トゥリングッやチュヌングッのような治病クツにおいては、現在でもヨンガムノリが行われているという、現地調査に基づく指摘があった。

しかし、なぜヨンガムが多様な性格を持ち、両義的な役割を担っているのか、そしてヨンガムノリが豊饒祭では省略され、治病クツにおいては持続しているのか、という疑問が残る。そこで、改めてヨンガムという神の属性と性格を検討し、「聖劇儀礼」としてのヨンガムノリについて考えたい。

ポンプリにあったように、ヨンガムは外来の神、すなわち来訪神である。異界からやってきた来訪神は、そのもてなし如何によって土着の神々以上に大きな恩恵をもたらすと同時に、病気や災厄をもたらす危険な存在でもある。ヨンガムの中には、堂神や祖上神として土着化したケースもあるが、船王や疾病神としてのヨンガムは、一時的にやってきて豊饒や凶険をもたらす来訪神である。だからこそ、ペバンソンによるねんごろな神送りが必要となってくる。また、ヨンガムの正体はトチェビ=鬼火でもある。トチェビはいたずら好きで、気まぐれな鬼神であり、やはりもてなし如何によって、極端な結果をもたらす「やっかいな神」である。雑鬼に比べれば人格化されているが、その本来の姿は鬼火であり、済州島の巫俗儀礼に現れる一般神とは属性が異なる。だからこそ、様々な名前と呼ばれ、多様な神格に変化することが可能であり、逆にいえば掴みどころのないオールマイティーな存在であるといえるだろう。このような属性が、ヨンガムの性格の多様さと両義的な役割を導き出しているのではないだろうか。

次に、聖劇儀礼としてのヨンガムノリを考えるにあたって、ヨンガムの表象、すなわち身なりや所作についてふれておきたい。発表にあったように、ヨンガムの身なりは滑稽である。短いキセルをくわえ、破れた笠を被り、襟だけ残った道袍(外套)、つま先だけ残った草履姿で、両手に松明を持ち一瞬で千里万里を越える。目と鼻と口に穴を開けただけの白紙の仮面をつけ、奇声を上げて笑い、飛び跳ねながら祭場に登場する。その姿は異様であり、ソウルの両班の息子が乞食に身をやつした姿でもあるが、その滑稽さと不気味さがいかにもトチェビらしい。その後、ヨンガムは手厚いもてなしを受け、患者から弟を引き離して連れ帰るという一連の演劇的なノリが行われる。言うまでもなくこのノリは、治病のための類感呪術的な要素が含まれた聖劇儀礼である。つまり、ノリの持つ呪術性ゆえに、ヨンガムの駆逐が必要な治病クツにおいては不可欠であり、そうでない豊饒祭においては省略することが可能であったのではないだろうか。また、ヨンガムの破天荒な身なりや所作に見られる身体表現は、ノリの呪術性を高める効果を持っていると考えられる。

最後に、ヨンガムの身なりのうち、白紙で作った仮面について発表者に質問したい。濟州島のノリにおいては、同様の仮面をつける神とつけない神がいる。だとすれば、神を表現する上で、仮面が必須のアイテムではないといえるかもしれない。濟州島のノリ儀礼において、仮面をつける神の属性や性格に共通する点があれば教えていただきたい。

註

1 — 玄容駿 1985『濟州島巫俗の研究』第一書房